

令和2年度 自己評価・学校関係者評価

岐阜県立大垣工業高等学校（全日制）

学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と確かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 一人一人が帰属意識をもち、生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり</p>	
2 評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習指導・国際理解教育）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>【生徒対象のアンケート結果】</p> <p>(1) 「先生は熱心に学習指導や生徒指導に取り組んでいる」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 90%(H30) → 87%(R1) → 90%(R2)</p> <p>(2) 「先生は授業の教え方や説明がわかりやすい」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 89%(H30) → 88%(R1) → 84%(R2)</p> <p>(3) 「学校は授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようと努力している」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 87%(H30) → 87%(R1) → 87%(R2)</p> <p>・上記は授業に関連する生徒アンケートの3年間の推移である。各教員の熱心な指導を多くの生徒が好意的に受け止めている状況が読み取れる。今後、生徒1人1台タブレットを活用した取組を充実させたい。</p> <p>【保護者対象のアンケート結果】</p> <p>(1) 「学校は、工業の専門的な技術の習得ができるような指導を行っている」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 92%(H30) → 94%(R1) → 91%(R2)</p> <p>(2) 「教職員は授業を通して学力が向上するように指導している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 86%(H30) → 80%(R1) → 74%(R2)</p> <p>(3) 「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようと努力している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 77%(H30) → 79%(R1) → 65%(R2)</p> <p>・上記は授業に関連する保護者アンケートの3年間の推移である。教職員の学習指導の取組について、保護者の理解を得られるような新たな取組や改善が必要である。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 ◇地域に開かれた信頼される学校づくり	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、工業部が連携して推進	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①授業改善に必要なICT機器活用のための教育情報の提供を行う。 ②研究授業や公開授業を設定し、職員による相互評価や授業研究会を行う。 ③海外インターンシップの活用とESD活動の活性化を行う。	①生徒による授業評価の結果 ②生徒・保護者アンケートの回答 ③研究授業・公開授業の教員間評価 ④研究授業・公開授業の実施件数 ⑤生徒・職員アンケートの回答	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①ICT機器の整備が整い、先生方の積極的な活	①研究授業・公開授業の教員間評	Ⓐ B C D

<p>用が進んだ。 ②学習支援ソフトの活用研修を行った。各先生方の授業改善へ活かしていただきたい。 ③国際交流とE S D活動を関連付けた取組を行うことができた。</p>	<p>価 ②生徒を対象とする授業アンケートの結果 ③生徒・職員アンケートの結果</p>	<p>A (B) C D A (B) C D</p>
<p>11 成果 ・ 課題</p>	<p>○今年度も多くの研究授業や公開授業を行って頂けた。ICT機器の整備が整い、授業における積極的な活用が進んだ。 ○授業に関連する生徒アンケートの3年間の推移において、各教員が熱心に指導し、授業改善への取組を多くの生徒が好意的に受け止めている状況が見られた。 △生徒1人1台タブレットを活用した授業について、積極的な活用を推進していきたい。 △学習支援ソフトの研修会の機会を増やし、先生方の授業改善に役立てていきたい。</p>	<p>総合評価 A (B) C D</p>

<p>12 来年度に向けての改善方策</p>
<p>重点項目</p>
<p>◇学習支援ソフトによる効果的・効率的な授業を研究し、各教科における重点的な取組の実現に向けて、環境整備や教育情報提供などの支援を行う。 ◇生徒1人1台タブレットの管理と、効果的な活用方法についての研究を推進する。</p>
<p>具体的実践内容</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ソフトの活用に関する研修会の実施。 ・生徒1人1台タブレットを活用した公開授業や研究授業の実施。 ・研究授業や公開授業を設定し、職員による相互評価や授業研究会の開催。

II 学校関係者評価

実施年月日 令和3年3月10日

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で学習の遅れ等を心配したが、先生方が創意工夫し熱心に取り組んでいただいた。 ・Web授業も手探りの状態で保護者には物足りなく、満足できるものではなかった。今後はICT機器をより活用しながら先生間、学校間で研鑽し、有意義なものになると良い。 ・保護者の評価が落ちてきているのが気になる。保護者への情報発信をもっとしていただきたい。 ・課題研究発表会は、問題解決手法とまではいかなくても、基本PDCAの考え方がある程度できており大変良かった。この考え方は社会に出て役立つと思う。 ・地域産業の担い手不足は喫緊の課題であるから、しっかり取り組んでいただきたい。卒業生を大いに活用されたい。 ・大垣市との協働事業に参加され、工業高校をPRしていることはとても良い。市民もより広く工業高校の良さを知る機会となる。

<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇生徒指導（含教育相談）</p>
<p>3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の学習目標を理解し、入学後に規範意識が向上している。 ・ケータイの使用時間の多くが自分の大切な時間を奪っている。特に3時間以上使用している生徒は学習成果を見るとその傾向が顕著である。
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員としての自覚と責任を持った自己自律ができる生徒の基本的な生活習慣の育成 ・教科、ホームルーム指導を通して倫理観や規範意識を体得させる ・危険予測などの危機管理意識を通し、積極的な交通事故防止啓発活動を行う ・教育相談の充実とチームサポートにより発達障がいなどの生徒への支援体制づくりをする ・「いじめ」撲滅のための組織的対応の推進
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時、遅刻時のルールの徹底、登校生徒状況の共有化 ・生徒情報の共有化（支援が必要な生徒情報の迅速化） ・指導、支援のマニュアル化と報連相の徹底

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導時の交通安全、身だしなみの指導 ・迷惑調査の実施といじめに対する早期の組織対応 ・支援生徒に対する外部機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年までの統計との比較 ・いじめの早期発見と対処が出来ているか ・支援生徒の生活改善 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・風紀委員による交通事故防止などの啓発活動 ・配慮が必要な生徒についての情報交換の充実 ・20分指導、遅刻指導を確実にを行う ・「いじめ」撲滅のための組織的対応の推進 ・授業規律の確立を推進するとともに授業環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ①組織的にサポートできたか ②落ち着いた授業の雰囲気 ③職員間で連携が取れたか 	<ul style="list-style-type: none"> A B C D A B C D A B C D
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ・風紀委員を中心として『自転車の2重ロック』および『交通法規遵守』運動を行った。自転車盗難は減少傾向にあるが、交通事故防止については更なる工夫が必要である。 ・いじめ調査や心のアンケート後の組織的対応については、これまでの運用実績の効果もあり、担任・学科・学年の連携がスムーズに行えている。その結果、迷惑行為を受ける生徒に対して早期対応ができるようになった。 ・コロナ禍において発熱や登校に不安がある生徒については出席停止となる措置が取られている。欠席日数はそれほど多くないが、出席停止を足すと長期欠席となる生徒が出ているのが今年度の特徴である。また、それらの生徒の共通点として心の弱さや気力喪失があり、今後の対応について検討する必要がある。 	
総合評価		
A B C D		

12 来年度に向けての改善方策
重点項目
<ul style="list-style-type: none"> ・自覚と責任を持った自己自律ができる生徒の基本的な生活習慣の育成 ・教科、ホームルーム指導を通して倫理観や規範意識を体得させる ・交通事故防止啓発活動などを通して、危険予測能力や危機管理意識を高める ・教育相談の充実とチームサポートにより発達障がいなどの生徒への支援体制づくりをする ・「いじめ」撲滅のための組織的対応の推進
具体的実践内容
<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通安全、身だしなみの指導 ・迷惑調査やいじめ調査の実施と早期の組織対応 ・支援生徒に対する外部機関との連携強化

II 学校関係者評価

実施年月日 令和3年3月10日

<ul style="list-style-type: none"> ・決まりを守る意義をしっかりと教えてあげて欲しい。相手の立場で物事を考える心を育ててください。 ・生徒指導は他校と比べても厳しく、しっかりと取り組んでいただいている。今後は、長期欠席者（心の病を含む）への対応をしっかりと取り組んでいただき、退学者の減少を望みます。 ・何が生徒に対し最も良い対応なのか。今後、学校の対応に期待したい。 ・MSリーダーズ活動をはじめとした各種防犯活動にご尽力いただき大変ありがたい。今後も啓発活動や交通事故防止への協力をお願いしたい。

2 評価する領域・分野	◇進路指導
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者は全員進路先を決め、進学も大学入学共通テスト受験者以外は進学先を決定することができた。 ・生徒必携とビジネス手帳の統合版の「大工未来手帳」を制作し4年目となり、活用度を高めたかったが、コロナ禍における社会全体の変化のため、進路行事が制約され全体への指導が手薄となった。 ・今年より学科群に分けての括り募集となり、1年生では学科選択が重要視され、進路希望調査により、将来への目標が具体性に乏しく、また先延ばしとなる傾向が見られた。

4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「キャリアパスポート」導入担当がどこの分掌でも「大工未来手帳」の活用と必要性向上を目指す。 ◇基礎力診断テスト実施のため、関係教科との連携および事前学習の準備期間確保をする。 ◇生徒の現状認識とワンランク上の目標設定による実力とマッチした進路選択を促す。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・授業中に「授業課題・テスト・持ち物等のメモ」を大工未来手帳に記録させる指導協力を全職員に依頼して推進に努める。 ・基礎力診断テストの結果が進路選考基準の対象となることを周知し、事前学習への取り組み向上を科や担任の先生に依頼して基礎学力向上を図る。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
①大工未来手帳の活用推進を学年会で依頼する。 ②基礎学力向上のため、「ワンウィークトライアル」を早期に配布し、2回できれば3回はリピート学習をできる期間を設けて取り組みの向上を図る。	①「大工未来手帳」の活用状況調査 ②基礎力診断テストの結果分析 基礎学力教材の到達度 進路内定率100%へ向けた達成度		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①手帳活用を学年会や科別集会での依頼を予定していたが、コロナ禍の影響もあり不十分であった。 ②基礎力診断テストのための事前学習教材を早めに配布し、学習時間確保をすることができた。 ③進路希望に対する適切な指導がある程度できた。	①「大工未来手帳」の活用度 ②基礎学力事前学習教材の活用度 ③進路選択先の可否状況	A B C (D) A (B) C D (A) B C D	
11 成果課題	○「大工未来手帳」を自ら活用状況は、3年生は多く1・2年生が少なかった。 ○今年度の就職はコロナ禍の影響で厳しくなると予想していたが、就職希望者の1次試験での不合格は4.3%(公務員を含む)と極めて少なく、昨年並みに収まった。 △基礎力診断テストの事前学習の時間は確保できたが、効果がまだ不確かである ▲進学者の希望先が、今年も「入りたい」ではなく「入れる」が中心になっていた。		総合評価 A (B) C D

12 来年度に向けての改善方策
重点項目
◇「キャリアパスポート」導入の方向性と担当部署の明確化および「大工未来手帳」との関連付けを推進する。 ◇基礎力診断テストの実施後の追跡調査と基礎学力向上のための事前学習への取り組みの向上を目指す。 ◇2年次後半には具体的な進路目標を見つけさせ、自分の希望に適した進路選択を促す工夫をする。
具体的実践内容
・「キャリアパスポート」の導入に対して、「大工未来手帳」＝「キャリアパスポート」となるように、大工未来手帳の内容をいいものになるように検討し工夫を加え社会人基礎力の育成に繋げることを目指す。 ・インターシップの時期やあり方の検討や現場・企業見学等の実施に伴う工業科との連携を図り、本校の売りであるキャリア教育を数多く実践している学校としての充実を図る。 ・基礎力診断テストに対する生徒と職員の意識を高め、生徒の実態に知った上で基礎学力の向上を図る。

II 学校関係者評価

実施年月日 令和3年3月10日

・適切な進路指導をしていただいている。今年度の進路も昨年並みであったとのこと良かったと思う。生徒の意識にもよるが、もうワンランク上の大学を目指すような姿勢が出てくると良い。 ・大工未来手帳の活用が定着すると思います。ぜひ拝見したい。 ・進学したいと思っても家庭の事情等があり難しいが、基礎学力の向上は勿論のこと、大垣工業高校ならではの強みを生かして指導して欲しい。
--